

中部標準化懇話会 2025年度 第1回事業所見学会 見学録

開催日：2025年9月16日 13:30～15:30

見学先：知の拠点あいち

- ・ あいち産業科学技術総合センター
- ・ あいちシンクロトロン光センター
- ・ 瀬戸窯業試験場

参加者：14名

作成者：見学会 幹事 近藤 覚

愛知県が推進する産学官連携の研究開発拠点「知の拠点あいち」にて開催された見学会に参加した。以下に、当日の内容と所感を報告する。

あいち産業科学技術総合センター見学

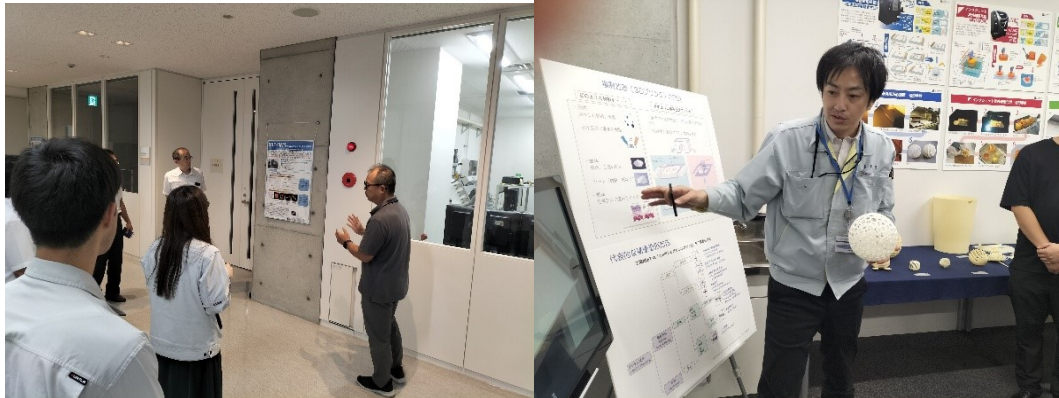
(計測分析室、重点研究プロジェクト活用プラザ)

センター事務局より「知の拠点あいち」の概要説明が行われた。本拠点は、県内企業の技術力向上と新産業創出を目的に設立されたもので、大学・研究機関・企業が連携し、重点研究プロジェクトや試験分析支援を通じて地域産業の高度化を図っている。

産学行政による共同研究開発推進の第四期重点研究プロジェクトの概要説明の説明を受けた。本プロジェクトは、2022年度から2024年度までの3年間にわたり実施されたもので、愛知県の基幹産業の高度化、デジタル技術の活用、社会課題の解決を目的に、産学行政が連携して研究開発を推進しているとのことであった。

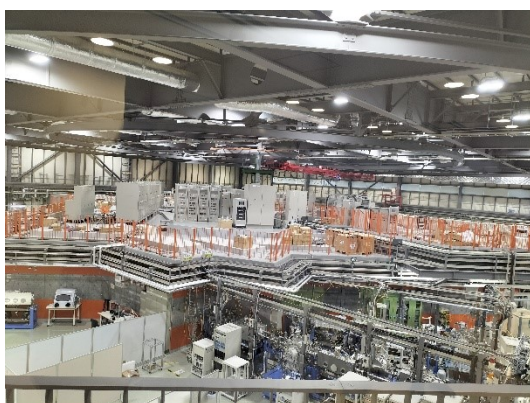
計測分析室前での試験機器の紹介と、分析技術の説明が研究員からあった。電子顕微鏡(TEM、SEM)や表面分析装置(AES、XPS)、ラマン分光装置など、最先端の分析機器が整備されており、企業の製品開発や品質管理に活用されている。各機器の特徴や分析可能な情報について、専門スタッフから丁寧な説明があり、実際の分

析事例も紹介された。特に、微細構造の可視化や元素分布の解析において、これらの機器が果たす役割の大きさを実感した。



あいちシンクロトン光センター

シンクロトン光センターに関する紹介があった。知の拠点あいちでは、国内の他施設(SPring-8 など)と比較して、産業利用に特化した中型の光源設備を整備しており、迅速な測定と高い操作性が特徴である。シンクロトン光の発生原理の説明から始まり、シンクロトン光を用いた X 線回折や吸収分光による材料評価は、従来の分析手法では得られない情報を提供し、特に新素材開発において有効であるとのことであった。



瀬戸窯業試験場

最後に、瀬戸窯業試験場の紹介が行われた。本試験場は、陶磁器産業の技術支援を目的とした施設であり、焼成条件の最適化など、地域産業に密着した支援を行っている。知の拠点あいちとの連携により、伝統産業と先端技術の融合が進められている点が興味深かった。



以上の見学を通じて、知の拠点あいちが果たす役割の広さと深さを実感した。分析機器の充実や研究テーマの社会的意義、地域産業との連携体制など、非常に有意義な内容であった。今後、自社の技術課題に対しても、同拠点の活用を検討する価値があると感じた。